



はぎのだい

校訓 自学 誠心 敬愛

萩野台小学校

学校だより 2月号

令和4年1月28日

学校HP QRコード



津幡町立萩野台小学校長 青山 昌美

学校評価の結果をお知らせします

日頃より本校の教育活動にご理解とご協力をありがとうございます。12月の学校評価についてのアンケートへのご協力もありがとうございました。同時期に児童アンケートと教職員アンケートも実施し、それらの結果をもとに学校評価を取りまとめました。

全教職員でこの結果を共有して分析し、今後の方針を固めましたのでお知らせします。

【学校評価の見方】

どの項目も、「重点目標について講じた具体的な手立てに確実に取り組めたか」という実施状況についての評価と、「その手立てにより、実際に成果が見られたか」という成果についての評価を行いました。そして成果についての達成率をもとに、各項目とも次のような基準で評価しました。

なお、平均値の最高値は「4」であり、平均値3.0ならば達成率は75%となります。

A: 平均値 3.5 以上 (十分達成している)	B: 平均値 3.0 以上 (概ね達成している)
C: 平均値 2.5 以上 (十分でない)	D: 平均値 2.5 未満 (不十分)

例えば、(1)『**根拠を明確にして表現し合う子**』の育成」の場合は、

実施状況の評価は次の3点のアンケート結果をもとに行いました。

- ・教職員アンケート「授業の8割程度で、学校研究に基づいた共通実践を行うことができた」→結果 3.3
- 「毎日の授業で『根拠に着目させる』『考えを持たせ、表現させる』『考えを表現し合わせ、深めさせる』手立てを1つ以上講じることができた」→結果 3.1
- ・保護者アンケート「学校（教師）は、分かりやすい授業をしている」→結果 3.5

成果の評価は、次の4点のアンケート結果の平均値をもとに行いました。

- ・児童アンケート「毎日の授業で、自分の考えが持っている」→結果 3.3
- 「毎日の授業で、自分の考えを発表することはできている」→結果 3.2
- 「毎日の授業で、友達と考えを話し合うことは楽しい」→結果 3.3
- 「毎日の授業で、自分の考えを話すときは、自分の考えのもと（根拠）を『～ですよ』と話すようにしている」→結果 2.9

重点目標 (1) の評価は、成果の評価が「3.2」なのでB評価（概ね達成している）となります。

なお、評価データと評価は「→」をつけて表記しています。矢印の前が7月（中間評価）のもの、矢印の後が今回の評価結果となります。

学校評価

	重点目標	評価データ	評価	結果の分析→今後の方針
1 学 力 向 上	(1) 「 根拠を明確にして表現し合う子 」の育成	(実施状況) 教職員 3.3→3.2 保護者 3.7→3.5 (成果) 児童 3.2→3.2	B ↓ B	前期の評価を維持している。教師が自分の指導方法について振り返る機会を設けることで、児童に自分の考えを筋道立てて表現させることを意識することができた。しかし、児童には筋道を立てて自分の考えを表現することができたことへの実感がまだ薄いと考える。 →引き続き、児童が根拠を明確にして筋道立てて話す場を積極的に設定する。また、児童の実態を適切に把握して、目指す姿をより明確にして実践を行うようにする。

1 学力向上	(2) 基礎基本の定着	(実施状況) 教職員 3.3→3.2 保護者 3.5→3.5 (成果) 統一テスト正答率 漢字 93%→95.2% 言語 83%→86%	A ↓ A	前期の高評価を維持している。前期に比べ、漢字も言語事項も正答率は上昇した。 限られた 10 分の帯タイムの学習の中で個に応じた指導を行ったり、家庭学習を充実させたりするには、より計画的に取組を行う必要がある。 →帯タイムの 管理職や級外の支援体制を学習指導部で事前に立案し、計画的に学習支援が行われるようにする。
	(3) GIGA スクール構想実現に向けた取組の推進 (町内共通)	(実施状況) 教職員 3.0→3.2 児童 3.6→3.7	A ↓ A	前期の高評価を維持している。教師は ICT の利用に向けて、積極的に取り組んだり、情報交換を行ったりしている。児童はタブレットを用いた学習に意欲的に取り組んでおり、評価が高い。 →これまで通り、 授業実践や教師間での情報交換を進めていく。ただ活用するだけではなく、効果的な活用に焦点を当てて考えていく。
	(4) 英語教育の充実 (町内共通)	(実施状況) 教職員 3.3→3.5 (成果) 児童 3.2→3.2	B ↓ B	前期の評価を維持している。児童が参加したくなるアクティビティや言語活動をねらいに沿って設定し、学習を進めることができた。タブレットや ICT の活用が、児童の意欲を高めたり理解を助けたりするための有効な手立てとなった。 →今後も、 ICT の効果的な活用法を含めた実践例や教材を共有し、ねらいに沿った言語活動の充実を図っていく。
2 豊かな心の育成	(1) 自己有用感の育成	(実施状況) 教職員 3.7→3.6 保護者 3.6→3.6 (成果) 児童 3.4→3.3	B ↓ B	前期の評価を維持している。自己有用感の育成を生徒指導の柱として取り組んできた。教師や保護者には充分浸透してきていると考える。 →これまで通り、「はぎのっ子キラリさん」の取組や、日常的な教師の関わりなどを通して、 児童の自己有用感の育成に取り組む。
	(2) 社会的生活習慣の定着	(実施状況) 教職員 3.6→3.3 (成果) 児童 3.3→3.4 保護者 3.5→3.4	B ↓ B	前期の評価を維持している。生活目標の 3 つの柱について、「言葉遣い」に対する評価が少し改善してきている。11 月の生活目標に「ちくちく言葉を減らそう」と具体的な言葉を決めて取り組んだことがよかった。 →引き続き、 3 つの柱について生活目標の取組を軸に指導を重ねていく。挨拶は「誰にでも」、言葉遣いは「前向きな言葉 (リフレーシグ)」、人間関係づくりは「感謝を伝える」をテーマにして、児童の力が高まるようにしていきたい。
	(3) 道徳教育の充実	(実施状況) 教職員 3.2→2.8 (成果) 児童 3.2→3.3	B ↓ B	前期の評価を維持している。児童については、肯定的評価 75%が 80%になっている。否定的評価 20%の児童について、個々の見取りをしていく。教師については、肯定的評価がやや下がっている。教材研究やノートを見る時間を確保できるとよい。 →これまで通り、 表現しやすい雰囲気づくりと発問や表現方法の工夫で、児童の表現を引き出す工夫を行う。発言やノートへの肯定的評価を行い、児童のよさを認めていく。
2 豊かな心の育成	(4) 夢や目標を持つ児童の育成	(実施状況) 教職員 3.3→2.8 (成果) 児童 3.1→3.0	B ↓ B	前期の評価を維持している。しかし、教師の実施状況の評価が C 評価に下がった。評価の観点の「夢や目標について指導することができた」について、目標や目当てをもつ指導は学校行事の際にきちんと行っているが、その都度「夢」についての指導は行っていないため、それが肯定的評価の低下につながった。(しかし、毎回「夢」について指導することは現実的ではない) →児童に目標を持たせ、 振り返らせる活動については、今後も意識的に行っていく。キャリア教育＝学びの価値を考えること、目標を立てて実現していくことであることを再度教師間で共有する。 また、評価の観点の文言については見直す必要がある。

	(5) 特別支援教育 の充実	(実施状況) 教職員 3.6→3.3 (成果) 教職員 3.6→3.1	A ↓ B	前期の A 評価から B 評価に下がった。支援を必要とする児童の困り感を聞き取り、よりよい支援の方法を考えることはできたと考えるが、その支援が奏功したかを確認するためには、時間が必要である。 →どの児童にとっても学校が居心地のよい場所になるために、児童理解を深め、今自分が何をすべきかが分かりやすくなる支援や自己肯定感を高める手立てを手厚く行っていく。
3 健康的な生活習慣	(1) 健康的な生活習慣の定着	(実施状況) 教職員 3.6→3.6 (成果) 児童 3.5→3.5 保護者 3.0→2.9	B ↓ B	前期の評価を維持している。すこやか集会において、保護者を巻き込んだ指導が実施できた。集会後に HP や保健だよりで情報発信するなど、継続した指導ができています。感染症防止対策については、児童同士で「マスクせんなんよ」「間あけんなんよ」と意識した声かけができています。また、マスク着用もしっかりできています。 →すこやか集会後は、保護者も児童も早寝・早起きの意識が高まっていたと思われるが、寒くなり日中の活動量低下のためか、夜早く眠れないことが考えられる。早寝・早起きの意識が継続できるよう、冬休みのチェックや健康パワーアップ大作戦等で引き続き指導を行う。 新たな変異株の感染者が増えてきており、第 6 波が懸念される。引き続き、感染症対策を徹底する。1 月には感染症対策の保健指導を実施した。また、寒くなり換気がおろそかにならないように指導していく。
	(2) 体力向上	(実施状況) 教職員 3.6→3.0 保護者 3.4→3.3 (成果) 体力テスト結果 前年度比-3.4% →+8%	C ↓ A	C 評価から A 評価に向上した。これは、11 月に再度測定した体力テストの記録が、前回よりも上回ったためである。「はぎのっ子ストレッチ」等、日常的に運動に取り組むための工夫をしてきたことも奏功したと考える。 教師の評価が少し下がっているが、2 学期は運動会や校内マラソン大会等、校内独自の体育的行事を中心に行ったためであると思われる。 →引き続き、「柔軟性」については、体育科の授業だけではなく、授業の隙間時間や休み時間に取り組めるストレッチを紹介する場を設定する。「走力」については、体育科の準備運動として、走る運動を積極的に取り入れる。
4 危機管理	(1) 学校の危機管理能力の向上	(実施状況) 教職員 3.8→3.8 保護者 3.7→3.6 (成果) 教職員 3.3→3.6 児童 3.9→3.9	A ↓ A	前期の高評価を維持している。各避難訓練において、教職員は確実に事前事後指導を行い、児童も安全行動をとることができた。 また、校舎内外で危険や異常箇所を見つけた際には、速やかに管理職へ報告し、対処することができた。 →来年度は、各訓練の優先度を考慮して、実施時期を再検討していきたい。 また、文部科学省通知に沿って、落下や倒壊の危険も含めて、点検を確実に行っていく。
5 家庭との連携	(1) 効果的・効率的な指導のための家庭との連携	(実施状況) 教職員 3.8→3.9 (成果) 保護者 3.7→3.5	A ↓ A	前期の高評価を維持している。日々の学校の様子を更新することにより、保護者は毎日、学校でどんなことがあったのか、知ることができたと考える。 →今後も学校での児童の様子を学校 HP で紹介していく。地域との関わりの様子についても積極的に更新していく。

6 業務改善	(1) 教職員の働き方改革と業務改善 (町内共通)	(実施状況) 教職員 3.3→3.2 (成果) 時間外勤務時間 平均 60H 未満 ▽ A : ~60H 指 B : ~70H 標 C : ~80H △ D : 80H~	A ↓ A	前期の高評価を維持している。マチコミによる体温チェックにより、チェック表の回収や点検、返却作業が軽減された。タブレットによる児童・保護者アンケートを実施したことにより、集計作業が軽減された。 →今後も ICT の活用により、軽減を図っていく。次年度に向けて、職員に簡素化できそうな業務を募り、検討していく。
-----------	---------------------------------	---	-------------	--

新型コロナウイルスによる欠席の扱いについて

先日配付した町教育委員会からのお願いの中に、「発熱・風邪症状・普段と体調が少しでも異なる場合は、自宅での休養を徹底する。(当面のあいだは同居のご家族も同様の症状がみられる場合は登校を控える)」とありました。また、お子さん本人または同居のご家族が、「新型コロナウイルスに感染した」・「PCR 検査を受けることになった」・「濃厚接触者・接触者と確認された」場合も、出席停止(欠席扱いとしない)になります。

なお、「同居のご家族の学校・保育園・会社等で新型コロナウイルスの感染者が出て、休校・休園・会社が休み」になり、お子さんを学校に来させることが心配で休ませたい場合も、出席停止となります。

令和3年度体罰調査の結果について

先日の体罰調査について、体罰調査構成員の大西公民館長様と本校職員とで調査用紙を開封し、**本校の体罰がゼロである**ことを確認しましたのでご報告します。ご協力をありがとうございました。

令和4年度の学級編制について

令和4年度の本校の児童数(見込み)は、次の表のようになります。

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	かがやき	全児童数
見込み人数	5	3	10	5	6	7	1	37

小学校では、「二つの学年の児童で編制する学級を16人(ただし、第1学年児童を含む場合は8人)」と定められているため、令和4年度は、下の表のように、複式学級が3学級となります。

	1・2年	3・4年	5・6年	かがやき	全児童数
見込み人数	8	15	13	1	37

ベルマークで本・体育用品を購入させていただきました

本校では、5年程前まで、PTA活動としてベルマーク運動を行っていました。そのベルマーク運動で得たポイントが未使用のまま貯められていましたので、PTA役員会で確認のうえ、学校備品として下記の品々を購入させていただきました。ありがとうございました。

- 本13冊
- フットサル用ボール
- バットングティー
- コーンバー

